

鈴木勝美先生を送る

細川 進

鈴木勝美先生は、平成9（1997）年3月31日をもって、本学部を定年によりご退官されました。先生は、昭和6（1931）年5月に神奈川県三浦郡三崎町（現三浦市三崎）においてお生まれになり、昭和27（1952）年に東京経済大学第一学部商学科に入学され、昭和31（1956）年3月に同大学を卒業され、同年4月私立大成高等学校（東京都三鷹市）教諭にご就任されました。しかし、経営学研究への思いが強く、昭和36（1961）年3月同高校を願いにより退職し、直ちに、同年4月に慶応義塾大学大学院商学研究科修士課程に進学され、さらに、博士課程に学ばれました。昭和40（1965）年1月に同課程を退学され、同年2月に香川大学商業短期大学部助手に就任されました。

先生は、商業短期大学部に赴任されて以来、32年にわたって、香川大学での教育研究にご尽力されました。すなわち、昭和40（1965）年6月に講師、昭和42（1967）年6月に助教授、昭和53（1978）年7月に教授に昇任され、さらに平成7（1995）年10月より経済学部教授を歴任されました。

この間、先生は、商業短期大学部連絡協議会委員、予算委員会委員など務められ、特に昭和61（1986）年4月から平成4（1992）年3月31日までは商業短期大学部主事および同部長として学内行政の重責を全うされました。

先生のご専攻は経営学です。経営管理論の中でも、特に経営統制論において独自の見解を主張されました。先生は、管理過程学派における管理過程概念、すなわち、計画、組織、統制の機能の内、とくに「統制機能」に注目し、それが単に計画のチェック機能にとどまらず、経営活動の全成果を制度的に判定し、評価し、解釈して、企業の存続と成長の程度を確認する機能でなければならないという独自の主張を展開されました。すなわち、先生は、従来から行われて

きている「期間的業績評価」に加えて、さらに、それ以上に「企業能力の評価」が重要であるとし、この二つの異質の評価を統一的に評価する為の基準として「企業の存続と成長」をとるべきことを主張されました。

このご功績により、平成4(1992)年4月1日に、慶応義塾大学より博士(商学)の学位を授与されました。その業績は、『経営の管理と統制機能—経営評価機能としての統制機能の提唱—』(白桃書房、1993年)として出版されました。

教育面では、経営学総論、経営管理論、財務管理論、経営評価論などの授業科目をご担当され、経営学の基礎教育において重要な役割を果たされました。特に、先生は、実業界から講師を選定した「経営実務講座」を企画して、教育の新しい方向を模索されました。また、先生の温かいお人柄から学生の人気は高く、特に演習においては、300名に余るゼミ生を教育され、現在地元の経済界で活躍している優秀な人材を育成しておられます。これらのご功績により、短期大学教育40周年にあたり、文部大臣より、教育功労賞を授与されています。

このような教育研究面でのご功績を称えるため、香川大学名誉教授の称号を授与されています。

さらに、社会的活動においても、香川県雇用計画委員会委員、高松商業活動調整協議会委員、高松商工会議所町づくり委員会特別委員などとして、地域社会の発展にご貢献されました。

先生をお送りするに際して、ここに、唐の詩人・王之涣の「鶴鵑楼に登る」という詩をお送りします。

白日 山に依りて 尽き
黄河 海に入りて 流る
千里の目を 窮めんと 欲し
更に 上る 一層の楼

先生は、ご退官後は、更に高松大学経営学部教授として教育研究に専念されておられます。幸い、お住まいもまた新しい職場も近うございますので、今後

とも、母校の発展のために、ご指導、ご鞭撻をお願い致しますと共に、先生のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。